

# 輪ギクの栽植密度の検討による生産性の向上 ～ 計算ソフトを利用した占有面積の適正化で売上UP！～

鈴木 麻衣（東三河農林水産事務所田原農業改良普及課）

【平成27年4月15日掲載】

## 【要約】

平成25年度に「精興の誠」の2月開花作型で、キク1本あたりの占有面積（ $\text{cm}^2/\text{本}$ ）の適正化による2L発生率向上効果を調査した。その結果、占有面積の見直しにより2L発生率は平成24年度同作型より30.6ポイント上がり、売上も57.7万円/10a上昇した。

また、JA愛知みなみ輪ギク部会員に占有面積を基準に考えた定植方法を普及するため、占有面積を簡便に計算できるソフトを作成し、講習会、JA広報誌などで紹介した。

## 1 はじめに

輪ギク栽培において、市場の需要に応じた規格の切花を生産することは、季節、品種によって栽植密度を変えることで可能である。しかし、多くの農家は栽植密度をハウスの通路面積を含めて把握しているため（定植本数÷ハウス面積）、農家ごとにキク1本あたりのベッド内の占有面積（ $\text{cm}^2/\text{本}$ ）が異なり、市場から求められる規格の発生率とならないことがしばしばある。そこで、2L発生率が特に低い冬季栽培において、占有面積の適正化による改善効果を確認し、占有面積を基準にした栽培方法の定着に向けて、簡便な計算ソフトの作成に取り組み普及を図った。

## 2 実証区の構成及び活動内容

### （1）事例調査及び実証ほの設置

優良農家の事例を聞き取ったところ、2L発生率が高い農家の占有面積は $120\text{cm}^2/\text{本}$ 以上であることが分かった。そこで冬季にボリューム不足となりやすい「精興の誠」で、平成24年度は $100.8\text{cm}^2/\text{本}$ で栽培したほ場で、平成25年度は占有面積を $121\text{cm}^2/\text{本}$ に高めた実証ほを設置し、前年度との出荷実績を比較調査した。

### （2）占有面積という考え方による栽植密度改善の推進

農家自身が占有面積を簡便に計算できるよう、ハウス間口や栽培ベッド数などの情報を入力することで占有面積や栽培実面積などを算出できるパソコン用ソフトを作成した（図1）。

ハウスの基本情報をパソコンに入力すると...		瞬時に計算！！	
ハウス間口	14m	占有面積	$121\text{cm}^2/\text{本}$
栽培ベッド数	7ベッド	栽培実面積	$388\text{m}^2$
1列あたりの定植本数 etc...	7本	栽培実面積率	61%

図1 計算ソフトの仕組み

### 3 結果

#### (1) 2L発生率向上効果の実証

平成25年度の2L発生率は44%で、平成24年度より30.6ポイント上がり、収穫率も高まった。その結果、10aあたりの売上は57.7万円上がり、占有面積の改善効果が明らかになった(表1)。

表1 「精興の誠」2月中旬開花の占有面積改善効果

	定植本数	占有面積	2L発生率	収穫率	売上
	本/m <sup>2</sup>	cm <sup>2</sup> /本	%	%	千円/10a
H24 改善前	41	100.8	13.4	91.7	1,703
H25 改善後	36	121	44	96.6	2,280
H24 定植:10月13日(直挿し)、消灯:12月14日					
H25 定植:10月17日(直挿し)、消灯:12月15日					

#### (2) 占有面積の見直し推進と計算ソフトのPR

占有面積の見直しが所得向上に繋がることをJA輪ギク部会員に周知するため、改善事例を示すとともに占有面積適正化を推進するのに必要な計算ソフトの使い方を、部会の栽培講習会や総会など、多くの農家が集まる場で紹介した(写真1)。部会以外の輪ギク農家には、JA広報誌に掲載して周知した。この普及活動が実を結び、平成26年度夏作から占有面積を見直す動きが活発となった。



写真1 講習会の様子

### 4 今後の展望

#### (1) 占有面積を基準にした栽培暦の作成

JAの栽培暦には、占有面積の基準が示されていない。そこで、周年安定して需要に応じた階級発生率で生産できるよう、さらに実証試験を進め経済性調査を行い、季節毎に品種別の占有面積を明示した栽培暦を作成し、適正な栽培方法を普及する。

#### (2) キク1本あたりの生産コストの把握

多くの農家では、キク1本あたりの生産コストの把握と経済性評価がされていない。そこで上記の計算ソフトに、種苗代や農薬代などの費用項目を入力することで一作ごとの生産コストが計算できるよう改良し、コスト把握を進めていきたい。